

| 科目名 精神看護援助論Ⅲ 時間割表記名 精神看護援助論Ⅲ | 配当時期 2年次後期 単位数 1単位 時間数 15時間(8回) | 講義担当者 後藤 広行 (実務経験のある教員) | |
|---|---|-------------------------------|--------------|
| 事前学習内容 基礎看護技術(コミュニケーション)で学んだ知識を想起し、プロセスレコードを活用できるよう準備しておく。 精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を想起し、活用できるよう準備しておく。 | | | |
| 授業目標 1. プロセスレコードを活用し、患者—看護師関係についてアセスメントできる。 2. 精神障害に特徴的な症例の看護過程展開を通して、対象に必要な看護を明らかにすることができる。 | | | |
| DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 | | | |
| 授業の流れ | | | |
| 回 | 学習内容 | 方法 | 備考 |
| 1 | 1. 精神科看護におけるセルフケア理論 | 講義 | テキスト①②③ |
| 2 | 1)オレムアンダーウッドモデル | | |
| 3 | 2. 統合失調症で幻覚妄想のある対象の事例展開 | グループワーク | |
| 4 | 1)統合失調症で医療保護入院をした患者のアセスメント (1)症状や治療によるセルフケアへの影響 | DVD 視聴 | |
| 5 | 2)看護問題の明確化 セルフケアへの影響による看護問題の明確化・優先順位の根拠 | グループワーク | |
| 6 | 3)介入計画の立案 4)統合失調症で幻覚妄想のある対象に必要な看護 (1)退院後の生活を見据えた患者・家族への個別性のある看護 | グループワーク | |
| 7 | 3. 患者—看護師関係の構築 | 講義 | テキスト③ |
| 8 | 1)ヒルデガード＝E＝ペプロウの人間関係の看護論 2)患者—看護師関係を理解するための手がかり 統合失調症で幻覚妄想のある対象との関係構築 3)精神障害をもつ人との関係の振り返り プロセスレコードの検討 | グループワーク * 第8回は45分 | |
| 受講上の注意 ○課題レポートはルーブリックを示して評価する。 | | | 評価方法 レポート |
| 使用するテキスト | | | |

- 1) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院
- 2) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院
- 3) 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社

参考文献

- ① 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院